

地域と共に歩む しらやま

越前市白山小学校

1. 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	3回(のべ)3日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	30人
授業ボランティア(含:低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	500人
その他()	0人

(3) 特色ある活動

テーマ	「ふるさと教育」
-----	----------

2. 具体的活動内容

白山地区では、「コウノトリが舞う里づくり」を通して里地里山を守ろうとする取り組みが行われている。そこで、本校では、「ふるさと教育」をテーマとし、環境を考えた教育に取り組んできた。

「冬水田んぼ」体験活動を通して環境を考える学習の取り組み

高学年では、「総合的な学習の時間」等の時間に、冬水田んぼでの米づくりに取り組んできた。地域・学校協議会の方やその他地域の方々をゲストティーチャーとして迎え、田植えや稲刈りの他に、継続的な草取り、生き物調査、稲の生育調査などの活動を行ってきた。冬水田んぼとビオトープでの生き物調査では、生き物の種類や数を調べることで、自然環境の大切さを学ぶと共に、無農薬による米づくりの大変さと大切さも学ぶことができた。また、稲の生育調査では、成長の速さや稲穂をつけた時の喜びを感じていた。

「コウノトリ」を通して環境を考える学習の取り組み

高学年では、専門家や地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、コウノトリの生態や住みやすい環境について学習してきた。夏休みには、コウノトリの巣を取りつける巣塔である電柱に絵を描いて地域に貢献することができた。また、毎日双眼鏡やモニターで観察し、日記に記録することで、2羽のコウノトリの様子や変化に気づき、愛着ももてるようになってきた。1月には、指物師の方が来てくださり、木製のコウノトリのパズルづくりにも取り組んだ。指物の技の素晴らしさに触れると同時にコウノトリにも更なる愛着を感じていた。

他の学年も、地域のコウノトリ見守り隊の方と一緒に観察可能なケージ近くまで出かけて観察したり、いこい館のPRコーナーで説明を受けたりした。



成果と課題

地域・学校協議会で、地域全体でどんな「白山の子ども」を育てたいか、育てる必要があるかについて話し合い、地域と学校とが共通理解のもと活動を展開することができた。

児童は、冬水田んぼやコウノトリに関連する活動を行うことにより、地域全体で取り組んでいる「コウノトリの舞う里づくり」の一環として、環境の保全再生に向けた取り組みの必要性を理解し、白山地区の自然保護に対する意識や白山の里地里山を守ろうという意識を高めることができた。

今後、無理のない計画を立てると共に、今まで以上に協議会が中心となって、地区の子ども達を、地区を支える子どもに育てていく活動の方策等を協議していく必要がある。

